

工業会活動

平成27年度JAQG活動報告会について

1. はじめに

JAQGは、航空宇宙業界における品質マネジメントに関する国際的な規格・ガイダンス文書を制定する組織であるIAQG (International Aerospace Quality Group) に対応した組織として、2001年当工業会 (SJAC) 内に設置された組織である。品質に関する国際統一規格の制定、認証制度の確立を図ることにより、品質改善とコスト削減を行うことを目的としている。2001年当初79社で設立したメンバー数も、現在、380社にのぼり、多くの方のご指導を受けながら活動を展開している。毎年JAQGは活動内容及び成果をJAQGメンバーに報告し、かつ、メンバー各位からのご意見 (アンケート結果等) を活動に反映させる機会の一つとして、活動報告会を開催している。

ここでは、今年2月に開催されたJAQG活動

報告会の様子を紹介する。

2. 報告会概要

航空宇宙分野の品質マネジメントシステム規格 (9100規格) は、国際規格ISO9001に航空宇宙業界特有の要求事項を追加したものである。2015年9月に発行されたISO 9001:2015版を踏まえ9100:2016版への改正作業が2016春発行に向け進められている。今回の報告会では、例年の活動成果の周知に加え、9100:2016改正関連情報提供により認証制度の移行を円滑にすることを目的に報告を行った。

また、それに先立ち特別講演として、防衛装備庁 調達管理部 企画調査官付 品質管理企画室 室長補佐 長町2等空佐に「防衛装備庁組織改正概要とDSP Z改正動向」と題して講演を頂いた。



報告会の様子 (名古屋会場)



報告会の様子 (東京会場)



特別講演 長町 2等空佐 (ATLA)



特別講演風景 (質疑)

3. 報告会の内容

今回の報告会の参加者数、参加企業・機関数は以下の通りである。

名古屋会場 (2/3開催)

参加者数：141名、参加企業・機関数：81

東京会場 (2/5開催)

参加者数：179名、参加企業・機関数：85

報告会での報告内容(概略)は以下の通りである。(報告順。()内は報告者)

なお、報告会当日の配付資料のPDFファイル版は、JAQGメンバー専用ウェブサイトに掲載されている。詳細は以下を参照されたい。

リンク先：

<http://www.sjac.or.jp/jaqg/member/modules/smartsection/item.php?itemid=491>

(1) 9100規格の改正動向－投票ドラフトの概要について

(河本正博 9100APセクターリーダー)

9100規格は、ISO 9001改正(2015年9月発行)を踏まえ、2016年4月にIAQG9100規格の次期改正版を発行する目標でIAQGにより改正活動が進められている。昨年7月に9100調整ドラフト、展開支援文書がリリースされ、その後、各セクター9100チームによるレビュー(～

9月)、IAQG9100チームによるレビュー(～10月)、投票ドラフト作成、各セクターによる投票が行われている。今回は昨年10月に開催された9100調整ドラフト概要説明会以降の変化点を中心に報告が行われた。また今後は、9100投票ドラフトコメントの各セクターレビュー、IAQG9100チームのレビュー(～3月)を経て、2016年4月にIAQG 9100-2016年版を発行する計画であること、国内規格の改正スケジュールとしてJIS Q 9100:2016^(*)の発行は2016年秋を予定していることが報告された。

*1) JIS Q 9100：品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛の分野の組織に対する要求事項



河本 9100APセクターリーダー (MHI)

(2) JAQG活動報告（小出芳夫幹事長（IHI））
JAQG活動状況全般が報告された。活動総括、今後の課題は以下の通りである。

H27年度JAQG活動総括

- ・ 9100:2016版への改正はJAQG内に設置されたワーキンググループ（WG）の一つである規格検討WGでスケジュール通り検討作業が進捗中。また他のWG活動もJAQG活動戦略に基づき推進中。
- ・ 数年前に国内業界で問題となった品質に関わる事案への対処としてJAQGが独自で進めていた「強固なQMS構築／展開」に関するガイダンス文書6点がWebで公開された。また、その内容が国際的な文書としてIAQGレベルへ格上げされ順次公開されることが決定。現在そのうち2文書について公開された。
- ・ 防衛省殿、国土交通省殿との意見交換を実施しステークホルダーとの関係構築強化中。

今後の予定

- ・ WG活動を継続し成果を展開する。9100改正の円滑な移行、認証制度の整備を促進していく。
- ・ 強固なQMS構築はIAQGのガイダンス文書として作成、順次公開する。

- ・ 規格の共通化等の改善につながるよう、国内のステークホルダーとの連携強化活動を継続する。

(3) 航空宇宙品質マネジメントシステム認証制度の現況（嶋貫雅一JRMCM議長（FHI））

9100規格の認証制度は、9001等の他の認証制度と異なり、業界が自らスキームオーナーとなって関連機関を承認、追認し、監視することによって信頼性を高める制度を構築している。その結果、世界での登録サイト数の伸びは右肩上がり増加しており、昨年度比10%程度である。また国内のJIS Q 9100認証取得組織（登録数）も約20%程度の601組織（平成28年1月1日現在）であることが報告された。

一方、9100:2016年版の改訂に伴って、各企業が取得している9100認証の9100:2016年版への移行書き換えが必要となるが、その移行に対する詳細要求事項が、昨年10月のIAQGマドリッド会議で承認された合意事項に沿って報告された。

すなわち2017年6月15日以降の全ての審査は新しい審査要求であるSJAC9101:F版に基づく9100:2016年版の審査でなければならないこと、組織は2018年9月15日までに9100:2016年版移行を完了せねばならないこと、これ以降



小出 JAQG幹事長（IHI）



嶋貫 JRMCM議長（FHI）

全ての9100:2009年版の認証が無効となることが説明された。

今後の予定

関係機関に対する監視（オーバーサイト）やIAQG各種規格類の開発参画の継続の他、以下を実施する予定。

- ・ JIS Q 9100:2016版、SJAC9101:F版への移行規程（ルール）を9100:2016年版の発行と同時にリリースする。また新しい規格に対する移行のための審査員研修モジュールの開発に参画する。
これらを通じて関係機関と協同したスムーズな移行促進と課題対応を実施する。
- ・ IAQGで進めている審査結果入力システム（OASIS）の改修計画に対し、IAQGへ意見具申を行う。
- ・ 審査員の力量を定義している基準（SJAC 9104-3）の改訂とそれに付随する力量妥当性確認プロセスの開発段階からの参画。

(4) ワーキンググループ等の活動報告

（各WG主査／各WGメンバー）

各ワーキンググループ活動の今年度のトピックスを中心に報告を実施した。

(a-1) 規格検討WG活動報告

（白井達矢主査（KHI））

WG活動全般として、9100シリーズ規格改正活動への参画・対応と国内規格改正作業状況及び、9100シリーズ以外のIAQG規格の制定／改正活動への参画状況、規格の理解促進のための展開支援文書作成状況について報告された。このうち9100シリーズ以外のIAQG規格に対応する国内規格の制定/改正作業状況としてSJAC9116（制定完了）^{(*)2}、SJAC9117（投票版準備中）^{(*)3}など



白井 規格検討WG主査（KHI）

が報告された。

一方、数年前に問題となった品質に関わる事案へ対処するために国内独自規格として作成したSJAC 9068^{(*)4}の9100:2016年版改訂に伴う見直し検討を開始したこと、及びSJAC規格のユーザビリティ改善活動としてSJAC規格のJSA（日本規格協会）ウェブサイトでの販売が開始されたことに関する報告がなされた。

*2) SJAC9116：航空宇宙規格 航空宇宙変更通知（NOC）の要求事項

*3) SJAC9117：製品リリースにおける検証の委譲（仮称）

*4) SJAC9068：品質マネジメントシステム－航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項－強固なQMS構築のためのJIS Q 9100補足事項

また、今回は、IAQG新規作成規格の動向として、9146規格の新規制定について、以下のとおり報告された。

(a-2) 規格検討WG活動報告－9146規格新規制定状況

（首藤寛（MHI））

航空・宇宙分野において「異物の混入及び異物による損傷防止」対策は重要な課題であり、これに対する情報やガイダンスは多数あったものの利用可能な規格が存在し



首藤 規格検討WGメンバー (MHI)

ないという現状に対し、IAQGメンバー会社のベストプラクティス・ガイダンスを集約した9146規格の制定作業が進められている。本規格は、2016年5月にIAQG規格として発行を計画、SJAC規格として、2017年3月までに発行を予定している。

(b) SCMH (Supply Chain Management Handbook) WG活動報告

(渡邊靖主査 (MHI))

SCMHは、IAQG戦略の重要活動の一つとなっているもので、サプライヤーのためのガイダンス文書、トレーニング資料、ベストプラクティスを集めたものであり、既存の規格を補足し「どうすれば要求事項を満たせるのか」、また「どうすれば改善／向上を図ることができるのか」に焦点をあてた文書である。最初に、今年度のIAQG SCMH文書作成状況及び和訳文書の作成状況が報告された。JAQG独自に発行した強固なQMS構築／ガイダンス文書、全6文書についてはIAQGに提案し2文書をIAQG SCMH文書として発行(*5)、残り4文書もIAQG SCMHとして発行準備中であり、2016年以降の発行を予定しているとの報告があった。SCMHの和訳版の発行について

は、「適合証明書 (CofC)」他19アイテムの和訳版を作成済みであり、JAQGメンバー向けに公開中である。「不適合製品の管理」「模倣品防止の予防」「マスタースケジューリング」の3アイテムについては現在和訳版を作成中であるとの報告がなされた。

- *5) MFG Work Instructions (作業手順書の取り扱い) : 2015年9月発行
- Compliance Education (コンプライアンス教育) : 2015年12月発行



服部 SCMH WGメンバー (MHI) (名古屋会場)



渡邊 SCMH WG主査 (MHI) (東京会場)

(c) 特殊工程検討WG活動報告

(堀田彰彦主査 (KHI))

Nadcap監査基準であるAC日英対訳版の公開状況、PRI技術委員会やSAE (Society of Automotive Engineers) への意見提言活動、



堀田 特殊工程検討WG主査 (KHI)

4月に神戸で開催されるNadcapシンポジウム（PRI日本事務所主催）への支援などが報告された。今年度からの新規活動として、日本版NANDTB^(*)に関する検討を実施したが、長期的なスパンでは設立の検討が有力と思われるものの早急な設立は困難な状況にあるものと考えられると結論されたことが報告された。又、Nadcapは英語が公用語であり受審サプライヤーでの監査も英語で実施されるが、監査員が日本人であれば、監査時の質疑は日本語となり監査受審が容易になることから日本人監査員増員についての要望が多いNadcap日本人監査員増員について、PRIへの支援を実施しているとの報告がなされた。

*6) National Aerospace NDT Board（国家航空宇宙非破壊検査委員会）

(d) コミュニケーションWG活動報告

（前畑貴芳主査（JAQG事務局））

JAQGメンバー専用ウェブサイトの新規再構築（2015年10月公開）についての概要が紹介された。昨年度のJAQG活動報告会時に実施したアンケート結果をWG活動に活用、「ISO9001改正版/9100調整ドラフト概要説明会」を東京・名古屋の2カ所で開催し、



前畑 コミュニケーションWG主査 (SJAC)

それぞれ150名超の出席者があり、参加者の90%が講演内容に満足していたとの報告がなされた。

(e) スペースフォーラム活動報告

（柳川祐輝主査（MHI））

スペースフォーラム発足の経緯に戻り、活動の意義、及び活動戦略について報告された。今年度の活動概要としては、9100規格準拠のJAXA殿品質要求文書の制定を支援したこと、平成27年度に「JMR-013品質プログラム標準（基本要求JIS Q 9100）」がJAXA殿から発行されたこと、アジア・太平洋地域宇宙機関会議（APRSAF-22 2015年



柳川 スペースフォーラム主査 (MHI)

12月インドネシア)にJAQGスペースフォーラムとして初参加、パネルセッションを開催しアジア地域でのIAQG活動啓蒙及びプロモーション活動(新規メンバー/ステークホルダー参加促進)を実施したこと、等の主要トピックスが報告された。

(f) 要員能力検討チーム活動報告
(朝倉崇顕主査 (IHI))

ヒューマンファクター、力量管理について報告された。

・ヒューマンファクター

IAQGの活動に参画しながら、ヒューマンファクターズガイダンス文書の次期改

訂版のドラフト(対象を新製工事のみだけでなくライフサイクル全体に適用できるように拡張)の作成に貢献したことが報告された。

・力量管理

IAQGの活動に参画しながら、JAQG要員能力検討WG内で“BoK”(Body of Knowledge、知識体系)開発者用のガイダンス資料の翻訳版を作成し、JAQGメンバー専用ウェブに公開したことが報告された。

なお、次年度以降IAQGでの要員能力検討チームの解散に基づき、JAQGについても本チームは活動をSCMH WGに引き継ぐことが報告された。



北森 要員能力検討WGメンバー(KHI)
(名古屋会場)

(5) IAQG/APAQG(Asia-Pacific Aerospace Quality Group) 活動報告

(寺境弘之APAQGセクターリーダー(MHI))

IAQG/APAQG及びJAQG活動との相関関係を交え、IAQGに関しては、設立経緯及びミッションに加え、業界規格である9100シリーズ規格の制定とその認証構築・維持を中心とした活動概要、2015年のIAQG成都会議(2015年4月)、IAQGマドリッド会議(2015年10月)、



朝倉 要員能力検討WG 主査 (IHI) (東京会場)



寺境 APAQGセクターリーダー (MHI)

APAQG成都会議（2015年4月）、APAQG釜山会議（2015年9月）の概要が報告された。IAQGマドリッド会議では、APAQGの投票枠の拡大（6→7票）が決定されている。又、APAQG活動の拡充のため、APAQGセミナーをマレーシア クアラルンプールで2015年8月に開催、韓国工業会（KAIA）と会議を行い韓国航空宇宙品質グループ（KAQG）立ち上げに関するアドバイスを実施、インド（アジア太平洋地区での9100認証取得数は、日本、中国に次いで第3位）工業会との調整を開始しIAQG/APAQG活動への参加を打診している等の報告がなされた。

4. おわりに

以上、今年度のJAQG活動報告会につき内容を紹介した。IAQGは、世界共通の航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する品質マネジメントシステム規格（9100規格）を初めとする関連規格及びSCMH等のガイドライン文書の制定に加え、“On Time, On-Quality Delivery”を効率的に達成することを目標に活動を展開しており、現在、航空宇宙の品質関連分野をリードする唯一の国際的な組織である。

今後は、JAQG発の本活動成果を国内にさらに普及させると共に、APAQG、IAQGへ積極的に提言する所存である。皆様のご指導、ご鞭撻を切にお願いする。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター(JAQG) 事務局 部長 前畑 貴芳〕